令和８年度 学校経営構造図

安芸市立川北小学校

学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

憲法・教育基本法
安芸市学校教育指針

家庭・地域の実態
子どもの実態

めざす学校像

○確かな学力を育む学校
○校風・伝統を大切にし、
　気持ちのよい挨拶が交わせる爽やかな学校
○清掃が行き届いた清潔で美しい学校
○保護者・地域の人たちから信頼される学校

めざす児童像

【知】伝え合い、学び合う子
⇒進んで学び、深く考え、表現（行動）できる

【徳】思いやりのある子
⇒自他のよさを認め、互いに協力し合って豊かに生きていく

【体】健やかな子
⇒忍耐強く、健康な心と体をもつ

めざす教師像

○心身共に健康で、児童に寄り添い、児童と共に前向きに歩む教師
○豊かな人間性をもち、使命感にあふれた教師
○確かな学力を身に付けさせるため、創意と工夫を凝らした授業を創造できる教師
○広い視野と展望をもち、保護者や地域の人たちと積極的に関わることができる教師

学校経営方針

児童にとって「学びたい学校」、教職員にとって「働きたい学校」、保護者や地域にとって「応援したい学校」づくりを推進する。
○基礎・基本の定着により、確かな学力を身に付けることに努める。
○児童一人一人の成長や変容が自他共に認められ、伸び伸びと、安心して過ごせる、健康的で温かい学級づくりに努める。
○教育公務員としての使命感や責任感を自覚し、協働性を有した職場づくりに努める。
○保小中、家庭や地域、教育関係諸機関との連携を図り、チーム川北をモットーとした学校（学級）経営に努める。

重点目標

授業改善

◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的･対話的で深い学び」の実現
⇒指導の個別化：個々の児童の特性や、学習進度・到達度等に応じた指導と支援、教材等の工夫（一定の目標達成に向け、様々な手法で学ぶ）
⇒学習の個性化：個々の児童の興味・関心等に応じ、個に応じた学習活動や機会を提供（異なる目標達成に向け、学びを深め、広げる）
⇒協働的な学び：個々の児童のよさや可能性を生かしながら、他者と協働（異なる考え方をミックスして、よりよい学びを生み出す）
⇒児童による自己評価と相互評価を学習活動の中に位置付け
⇒対話の目当てを共有した対話活動
⇒深い学び方の共通理解と共通実践

児童理解

◇道徳、特別活動、特別支援・人権教育の充実
◇生徒指導の４機能を生かした授業づくり
⇒「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」
◇特別支援教育（ユニバーサルデザイン）の視点
⇒場の構造化、刺激量の調整、１日の授業の見通し、めあての明確化、集中のさせ方、授業の組立、活動のメリハリ　など
◇人権教育の視点
⇒自他の人権を守るための実践行動「自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度」「人権に関する知識・理解」「人権感覚」
「いじめは、しない、させない、許さない」

組織力向上

◇人材育成（メンター制の推進）
⇒若年・ミドル・ベテラン・管理職、それぞれの関わり合い
◇各担当校務分掌、部会等の計画的、効果的な運営
⇒学校経営計画の作成・検証
◇働き方改革の推進
⇒学校行事等の精選と校務のスリム化、校務支援システムの効果的な運用
⇒一斉退庁日、最終退勤時刻の設定
⇒不祥事防止の取組
◇チーム川北の構築
⇒コミュニティスクール、地域学校協働本部
⇒地域や保護者等への啓発活動

研究主題

一人ひとりが動き、自らの学びを創造する児童の育成
～ 互いに認め合い、自分の考えを伝え、協働的に学ぶ授業を通して ～

学習部

○校内研修全般（**複式指導**、授業づくり、メンター制等）
○児童の基礎学力の向上と定着、学力分析と対策
○ICT(児童用タブレット、**AIドリル、プログラミング**、電子黒板等)の活用

道徳・人権部

○特別活動（学級活動・縦割り班活動・集会活動・学校行事等）の充実
○自尊感情と規範意識の向上、**不登校の未然防止**と共通実践
○人権・道徳教育の推進

生活・特別支援部

○基本的生活習慣の確立
・生活リズム、ノーメディアの取組
○特別支援教育の推進
○校内支援会・支援ミーティングの実施

音楽チーム

○音楽集会の計画と実施

体育チーム

○体育と体育行事（ブロック授業、体づくり、水泳指導、運動会、持久走大会、縄跳び等）の計画と実施